

館長の交替にあたって

地域社会に深く根をおろしつつ、大学の博物館らしい充実した学術研究活動を行ってきた大阪商業大学商業史博物館が、正式に、大阪府で四校目の博物館相当施設として認可されたのは一九九九年のことである。それを契機に前館長瀧澤秀樹教授は、兼務されていた比較地域研究所との一体的運営による、両機関の諸活動における緊密な有機的連携の確保とシナジー効果の追求を、課題として明確に設定された。すなわち、「活動し、研究する博物館」をスローガンとして前面に打ち出し、近世大阪の商業を中心とする古文書の収集・保管の拡充や展示方法の革新のたえざる追求を基本的任務としつつも、それだけにとどまらず、広く地域学研究の一翼を担える調査・研究する博物館を目指したい、と宣言されたのである。

このたび、私は瀧澤教授の後任としてこの四月より、この伝統ある商業史博物館の館長職を拝命することになったが、前館長の設定した上記課題の追求の点でいささかの変更もない。幸い、大学当局の惜しめない支援が期待できるし、比較地域研究所所長職に専念される瀧澤教授とは個人的にも親密であり、上記方向に沿って何事もご教示、ご助言をいただけるものと確信している。

さらに、最も重要な点であるが、当博物館のスタッフには大阪地域の近世史に造詣の深い人材や編集作業、地域文化活動の支援等に熟達した人が揃っているし、長年にわたる比較地域研究所の活動との強固な連携の実績がある。誠に心強い限りであり、私の唯一の勤めは、これら優秀なスタッフの創意あふれる自由な活動の邪魔をしないことにある、と確信する。

大阪商業大学商業史博物館が従来と同様の成果を挙げるべく、皆さんのご叱正、ご教示、ご助言、その他さまざまな形のご支援・ご協力をお願いしたい。